

「比婆牛」の歴史と復活からの経過



農業振興課畜産振興係 ☎0824-73-1227

平成26年7月に「比婆牛」が復活し、本年で5年が経過しました。これまで「比婆牛」は平成28年6月に特許庁の地域団体商標を取得し、本年9月には広島県内で初めて農林水産省の地理的表示保護制度（GI）へ登録されるなど、「比婆牛」ブランドは着実に進展しています。今回は「比婆牛」の歴史と復活後の経過について説明します。

「比婆牛」の歴史

比婆庄原地域では、和牛は農作業、たたら製鉄などに欠かせない存在であり、古来より人々の生活に密接に関わってきました。その和牛の中でも特に優秀なものを選抜・交配することで、旧比和村（現在の比和町）の岩倉六右衛門が1843年に「岩倉蔓」を作出しました。「岩倉蔓」は最古の蔓牛として全国和牛登録協会から認定を受けており、岩倉六右衛門はこの功績をたたえられ、農務大臣から追賞を受けています。

この「岩倉蔓」の系統・特色を受け継いだ和牛をもとに改良を進めるため、「あづま蔓牛造成組合」が設立（昭和23年）されました。そして、集団的・計画的な交配を比婆庄原地域で行うことで固有の系統である「あづま蔓」が造成され、「第21深川」や「第38の1岩田」といった優秀な和牛が誕生しました。

この地域の和牛は地域の名称をとり「比婆牛」として名をとどろかせ、全国で和牛の改良に大きく貢献しました。和牛のオリンピックと呼ばれる全国和牛能力共進会の前身である全国和牛共進会では、第1回（昭和28年）大会で名誉総裁高松宮杯・農林大臣

賞を受賞しました。

また、全国和牛能力共進会では第3回（昭和52年）大会で農林大臣賞を受賞し、さらに第4回（昭和57年）・第5回（昭和62年）大会で2大会連続の内閣総理大臣賞という快挙を成し遂げました。昭和63年には農林水産祭で天皇杯を受賞し、日本一の和牛産地として名声を博したなど、「比婆牛」には数々の輝かしい実績があります。



「比婆牛」復活からの経過

広島県内では、平成25年11月に広島県が「広島血統和牛承認制度」を制定するなど、広島県和牛が持つ伝統の「血統」に着目したブランド化に向けた取り組みの推進がなされています。

本市は、前述のとおり広島血統和牛のルーツといえる地域であり、こうした県内の取り組みと連動し、「比婆牛」のブランド復活による、新たな視点での和牛振興を図るべく、関係者と検討を行いました。その結果、平成26年7月、比婆牛ブランドの推進組織である「あづま蔓振興会」を設立し、あわせて「比婆牛」ブランドの認証・販売を開始しました。

また、市は、庄原農業協同組合および全国農業協同組合連合会広島県本部と「比婆牛」ブランドの戦略的な販売・情報発信の振興に向けた協定を締結しました。

以降、「あづま蔓振興会」を主体に、生産振興・販売振興を軸とし、比婆牛ブランドの確立に向けた取り組みを進めています。

その取り組みの柱として、平成26年11月に庄原農業協同組合が、特許庁に対し「比婆牛」を地域団体商標へ出願し、平成28年6月に登録されました。



▲比婆牛サーロインステーキ（200g × 5枚）

上述したように、「比婆牛」が復活してから、「比婆牛」ブランドは着実に進展しています。今後も関係機関と協力し、「比婆牛」のブランド振興を行ってまいります。これからも「比婆牛」の活躍にご期待ください。

また、平成28年3月にはあづま蔓振興会が農林水産省に対し「比婆牛」を地理的表示保護制度（GI）へ申請し、本年9月に登録を受け、10月7日には広島県の湯崎英彦県知事に対してGI登録の報告（詳細は裏表紙記載）を行いました。